

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900714		
法人名	有限会社 旭川高齢者グループホーム		
事業所名	グループホームほーぷ		
所在地	旭川市春光台5条2丁目14番7号		
自己評価作成日	平成22年8月16日	評価結果市町村受理日	平成22年10月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://77system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900714&amp;SCD=320">http://77system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900714&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成22年10月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にありながら、広々とした敷地を持ち、前庭・光庭(中庭)にはたくさんの樹木や花壇を配しています。緑と花々に囲まれた静かでくつろぎのある住空間です。この恵まれた周辺環境のもとで、私たち介護専門スタッフが24時間、入居者の皆さんの生活のお手伝いをさせていただきます。また年間を通して多くのレクリエーション、イベント等の楽しい行事計画をしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の閑静な住宅街にあり、自然に囲まれた敷地には同一法人の居宅介護支援、通所介護、訪問介護などが隣接している。事業所は1階に2ユニットあり、段差がなく車椅子や歩行が困難になっても気軽に相互の交流を行うことができる。また、職員間でも入浴介助やレクリエーションなど協力体制が取りやすい、リハビリ体操やラジオ体操、日々の散歩で季節を感じながら利用者の身体機能の維持に努めている。職員の資格取得に対し勤務体制の調整、研修費の助成など働きながら向上心を持てる職場環境に努めている。地域の高校から和太鼓の演奏、中学校から職場体験に訪れ、事業所からは地域の清掃活動、花壇の整備などに参加するなど、地域に根ざした事業所として期待される。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意識的に目に付くよう、理念を詰所に掲示し、理念を共有し実践出来るよう努めている。	事業所独自の理念として、利用者の欲求の充足、尊厳の保持と個人情報の厳守、職員の知識・技術の向上の3つを掲げ、事務所に掲示している。	グループホーム本来の目的である、地域密着型サービスとして、本人本位に生活することを地域と支えるサービスとケアを理念に含め、事業所の取り組みが地域に浸透していく事を期待する。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域行事には可能な限り利用者さんと参加し、また施設を開放しどなたでも立ち寄り頂ける環境を作っている。	町内会に加入し、花見や夏祭りに参加している。また職員は清掃や花壇作り等地域活動に積極的に参加している。事業所へは毎年地域の中学生在が職場体験に訪れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症への理解をはかり、グループホームでの支援の実態を報告している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催し、意見交換や情報の収集を行い、よりよいサービスが提供出来るよう努めている。	「運営推進委員会議規則」を作成し、利用者家族、町内会役員、運営推進会議担当職員で構成され定期的に開催されている。事業所からは行事報告、認知症について、防火対策など事業所の課題や取り組みについて話し合われている。	今後は更に、市の担当者、包括センター、警察、消防、民生委員、地域住民などに会議への参加を積極的に働きかけ、事業所での取り組みと理解、地域の協力を得ることが出来るよう期待する。また、利用者、利用者家族からの意見や要望を聞き、サービスの向上に繋げるためにも更なる参加が望まれる。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取るまでは至っていないが、今後連携をとりサービスの質の向上に努めていきたい。	市の担当者とは必要に応じて連絡をとっている。	より良い事業所の運営やサービスのため、事業所の実情や取り組みなどを積極的に伝え、市の担当者の理解と情報の共有を図り、サービスの質の向上に向けた協力関係が築かれることを期待する。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会やカンファレンスを開催し、正しく理解出来るよう実践している。また、マニュアルを詰所に設置し職員がいつでも見ることが出来る。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害を理解し、マニュアルの作成、勉強会を実施し職員の共有認識を図り、拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。また、日中施錠せず利用者の安全に配慮し、自由な暮らしを支えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、理解を深め現状の把握をすることで虐待を未然に防止できるよう注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、職員間で制度の理解を今後深めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はもちろん、何かあればいつでも相談を受け理解・納得していただけるよう十分な説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員がご家族と接する機会はあるが、運営に関する家族意見にまでは発展していません。今後、要望を表せる機会を設け、運営に発展させていきたい。	重要事項説明書には内部の相談・苦情窓口の掲載はあるが、外部の相談窓口の掲載がされていない。過去には、ご意見箱の設置・家族との懇談会を行っていたが現在は行なわれていない。	外部への相談・苦情窓口を明示し、より多くの意見聴取の方法の一つとして家族アンケートを行うなど、意見や苦情に対する事業所の前向きな姿勢を示す取り組みを望む。併せて、家族との懇談会を再開し、家族が意見や要望を表せる機会を多く持つことを期待する。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族同様、職員の意見や提案を運営に反映させるには至っていません。今後の課題にしていきたい。	事業所は利用者とは一番身近な職員の意見は大切と理解している。職員が意見や要望を述べやすいよう、職員会議やミーティングにテーマを決めて話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、職員が向上心を持って働けるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会やミーティングは行っているが、法人外での研修を受ける機会が少ないため、今後は積極的に参加していきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会はなかなかなく、今後の課題にしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前から、ご家族やご本人との面談を行い、不安や要望などをうかがう機会を設け、関係づくりに努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前から、ご家族やご本人との面談を行い、不安や要望などをうかがう機会を設け、関係づくりに努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者であるということを忘れず、暮らしを共にする者同士の関係を築いて			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐにご家族に連絡をとる体制を作っており、必要であればご家族に協力を仰ぎ、本人と家族を共に支える支援をしている。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会のご家族に確認をとりその後、面会可能である。電話があった場合も同様に、本人に確認をとり出来る限りお繋ぎしている。	馴染みの関係が継続できるよう、知人からの電話や、馴染みの美容院など要望があれば可能な限り本人の希望に応える支援に努めている。知人や家族の訪問には、利用者と共に寛げるよう配慮している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう、職員が利用者同士の仲介役となり関わり合いをもてるような支援に努めている。ご本人の意思を尊重し支援していく。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、定期的に連絡を取り、必要な支援が出来るよう努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、ご本人の希望に副えるよう努力している。	日々の係わりの中での会話や表情、行動から思いや意向の把握に努めている。利用者の職員担当者制を設け、連絡ノートや個人記録で情報の共有を図っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から関係づくりをし、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握出来るよう努力している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人にあったケアプランなのか、それぞれの意見やアイデアを反映し、ご本人に適切なサービスが提供されているか検討している。	定期的に行われる担当者会議や、3ヶ月毎に行なわれるケアプランの見直し時に利用者、家族の意見や要望を取り入れ、職員間で検討し現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、ご本人の状態・ケアの実践をすべて記録し、職員間で情報を共有できるようになっている。日々の記録より適切なサービスが提供されているか見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、職員が地域資源の把握に努め支援していきたい。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族の希望を第一に考え、かかりつけの病院には定期的に受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医療機関の他、利用者、家族の希望する医療機関で受診できるよう家族と協力し通院介助を行っている。また訪問診療に来てもらう等希望する医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には常に連絡をとれる体制をとり、指示を受け迅速かつ適切な受診や看護を受けられる支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より病院のSWと密に連絡をとっており、入院期間の目安などの情報交換を行うことにより、居室調節がスムーズに行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・家族と話し合う機会をつくり、意志を尊重し、出来る限り希望に副えるような環境を作り支援している。	重度化に伴い医療型に移行するケースが多いが、早い段階から終末期のあり方については利用者、家族などと話し合い、事業所として出来る最大の支援をするよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応について、定期的に勉強会を行い全職員が対応出来るようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の避難訓練しか行なっておらず、今後運営推進委員会で地域住民の方への協力を呼びかけていきたい。	隣接する同一法人の他の事業所との合同訓練と、事業所独自の避難訓練の2回行われ、法人内での協力体制は築かれている。運営推進会議で自治会に協力を呼びかけている。	今後は消防署の協力を得て夜間の想定、利用者参加の訓練の実施や、運営推進会議で地域住民の訓練への参加と協力体制が確立されることを期待する。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、人格の尊重とプライバシーに配慮した支援を行っていきたい。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、個々の状態に合わせた声かけや対応を心がけた支援を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を言しやすい環境を作り、自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望にあった支援をしていきたいが、職員の都合を優先することがあるため、今後の課題にしていきたい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カロリー計算がされたバランスのよい食事を提供し、アレルギーや苦手な食べ物があれば一人ひとりに対応したメニューを提供している。	調理師を配置し、利用者一人ひとりの身体機能や状態に合わせた調理を行っている。季節には菜園で利用者が育てた収穫物が調理されるなど、食事は大きな楽しみの一つとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は全職員が把握出来るようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方の口腔ケアは行っているが、今後自立の方にも声かけを行う必要がある。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、なるべく失禁なくトイレで排泄出来るよう心がけている。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を促している。各居室にトイレが設置されていることも排泄の自立には効果的である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指示による個々の下剤の調整、飲食物の工夫を行い便通を図っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外の入浴も可能であるが、実際に入浴される方はいなく、職員が主体になりがちなので、個々に対する支援が出来るよう支援していきたい。	入浴日を決めているが、希望する日に入浴することができる。大浴場と個人用風呂を選択することができる。大浴場からは中庭を展望でき、季節を感じながら入浴を楽しむことができる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣に合わせ、休息をとれるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をカルテの他に、詰所にファイルし誰でも目を通せるようにしており、薬の管理の管理は看護師がしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態を理解した上で、役割、楽しみごと、気分転換などの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	現実的に一人ひとりの希望にそって外出することは困難であるが、出来るだけ外出行事を計画するなど、希望にそえるよう努力している。	家族との外出や日常的な散歩、定期的な買い物や花見・冬祭りなど季節ごとのドライブと外出の支援を行っている。また、敷地内での菜園やぶどう狩りを楽しむ等戸外に出る機会を作っている。	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	月に1度、買い物ツアーを行い、お金を所持、使用する機会を設けている。実際に機会を設けることで、お金の大切さや社会との関わりが持てるよう支援している。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	詰所前に公衆電話を設置し、どなたでも利用できる。また手紙を書かれる方は職員が代わりにポストへ投函している。		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	室内の壁の色や、照明など不快や刺激を与えず、くつろげるような環境を提供出来るよう配慮している。	居間の壁には行事の写真が飾られ、採光や照明で落ち着いて寛げるよう配慮された造りとなっている。広い造りの居間は、リハビリのための体操やユニット間での交流のためのレクリエーションの場にもなっている。	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ホールでは、他者との交流がはかれたり、過ごしやすい環境を整えている。		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室の家具は全て持ち込みになっているため、ご自宅と同じように過ごしていただけるように配慮している。また、各居室電動式の介護ベッドを設置している。(ご自分のベッドの持ち込みも可。)	使い慣れた家具や仏壇、家族の写真や思い出の品が持ち込まれ、居室内にはトイレ、クローゼット、必要に応じ電動式介護ベッドが設置され、安全で安心して暮らせるよう配慮されている。	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	施設内は手すりの設置やバリアフリー構造とし、安全に生活出来るよう工夫している。		